

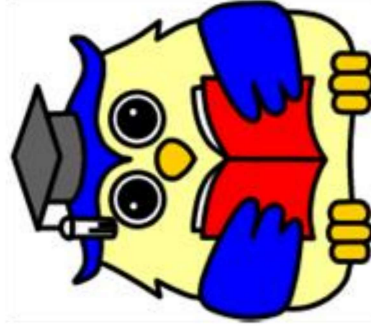
はじめに

4歳くらいになると、それまでのように身近なものだけでなく、様々な世界に興味を持ち始めます。想像力や感性が豊かになり、それぞれがお気に入りのものを見つけたいと思います。

このリストでは、ストーリー性のある物語や昔話、知る喜びを味わえる科学絵本や言葉あそびの本を集めました。子どもたちが、「本はたのしい」と感じるきっかけづくりになれば、と願っています。

ひろがるせかい
えのほんよもっかなっ

—4・5・6歳向け—



相模原市の図書館

もくじ

- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・1
- なんどもよんでほしいおはなしえほん・・2
- にほんのむかしばなし・・・・・・・・16
- せかいのむかしばなし・・・・・・・・18
- ふしぎいっぱいかがくえほん・・・・・・・・20
- うた・ことばあそび・・・・・・・・25
- えほんからものがたりへ・・・・・・・・26

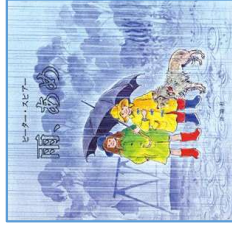
シリーズのある本には  マークがついています



なんどもよんでほしい おはなしえほん

雨、あめ

ピーター・スピアー／作 評論社



雨の日だって、外遊びは楽しいこといっぱい。水たまりや水しぶきで遊んだり、雨宿りをする動物たちを見ることもできます。文字のない絵本ですが、雨の日に色彩豊かに描かれていて、外遊びの楽しさが存分に伝わってきます。

アンディとらいおん

ジェームズ・ドハーティ／文・絵 むらおかはな／訳 福音館書店



アンディは、図書館でらいおんの本を借りてから、ずっとらいおんのことばかり考えていました。すると、ある日学校へ行く途中に本物のらいおんに出会ってしまいます。

ひとつのことに夢中になるアンディは、この時期の子どもたちそのものです。

イエペはぼうしがだいすき

石亀泰郎／写真 文化出版局編集部／文 文化出版局



お気に入りの帽子を離さないイエペ。そんなイエペの保育園での様子を撮った写真絵本です。帽子をかぶってとても嬉しそうなイエペが印象的で、お気に入りの帽子をかぶった子どもと一緒に楽しみたい絵本です。

いたずらこねこ

バーナディン・クック／文 レミイ・シャーリップ／絵
まさきりこ／訳 福音館書店

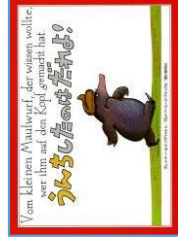


ある日、かめが庭を散歩していると、となりの家のいたずらこねこが近づいてきました。

落ち着いているかめと、かめを初めて見るこねこの様子が対照的で楽しいお話。シンプルな絵だからこそ、主人公たちの表情が引き立ちます。

うんちしたのはだれよ!

ヴェルナー・ホルツヴァルト／文
ヴォルフ・エールブルッフ／画 関口裕昭／訳 偕成社

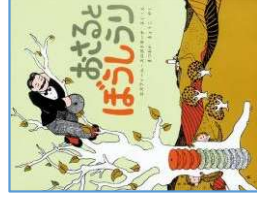


頭の上にうんちを落とされ、怒ったもぐらが犯人探しに出かけます。ハトや牛にたずねてみますが、犯人は見つかりません。

ストーリーを楽しみながら、動物たちのうんちについても知ることができる一冊です。

おさとぼうしうり

エスフィール・スロポドキーナ／作・絵
まつおかきょうこ／訳 福音館書店

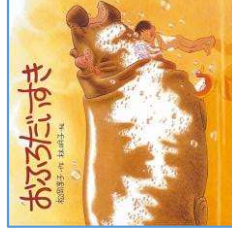


帽子売りが木の下でひと眠りしていると、頭にのせた売りの帽子はなくなり、木の上には帽子をかぶったおさるたちが? はたして帽子を取り戻せるのでしょうか?

おさるとの掛け合いが楽しい、ユーモアあふれる作品です。

おふろだいすき

松岡享子／作 林明子／絵 福音館書店



おふろが大好きなまこちゃん、今日もおもちゃのあひろのブックと一緒ににおふろに入ります。すると突然、ブックが「おふろのそここ、おおきなかめがいますよ。」と言いました。けれど、出てきたのはかめだけではありませんでした。

次々と現れる意外な生き物たちに子どもたちもびっくり!

かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック／作 じんぐうてるお／訳 富山房

家では、ご飯ぬきになったマックス。寝室にほうりこまれたマックスは、かいじゅうたちのいるところへ行き、王様になって楽しく過ごします。でもだんだん寂しくなってきた……。いばってみたいけど、甘えたい。そんな子どもの心をよく表しているお話です。



かしこいビル

ウィリアム・ニコルソン／作 まつおかきょうこ／訳
よしだしんいち／訳 ペンギン社

おはさんの家へ行くことになったメリー。大好きな人形のビルもつれて行くつもりでした。でも、うっかりトランクにビルを入れ忘れてしまいます。ビルはショックで泣きずれます。メリーとビルのお互いを強く思う気持ちが伝わってきます。



がたごと がたごと

内田麟太郎／文 西村繁男／絵 童心社

お客を乗せた列車が野を越え山越え、がたごとがたごと。着いたところは「おくやま駅」。ところが、降りたお客たちの姿は乗った時とは変わっていました。

変化する乗客の姿を見比べて楽しめる、ユーモアあふれる一冊です。



ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム／作 みつよしなつや／訳
ほるぶ出版

ガンピーさんのふなに乗せてほしいと、子どもと動物が次から次へとやってきます。その度に、けんかをしないことを約束してふなに乗ります。

思いがけない展開が楽しい絵本です。

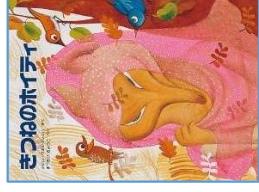


ぎつねのホイテイ

シビル・ウェッタシン／作 まつおかきょうこ／訳
福音館書店

ぎつねのホイテイは、いつもお腹をすかせています。そこで、村へ食べ物を探しに行きました。そして、ある家の食事の様子をのぞいているうちにうまいことを思いつきました。

ホイテイと村の人とのだまし合いが楽しい絵本。日本と違うスリランカの生活場面が、表紙裏にも描かれています。



くいしんぼうのはなこさん

いしいもこ／文 なかたにちよこ／絵
福音館書店

わがままな子牛のはなこは食べることが大好き。他の子牛の分までほとんどひとりで食べてしまいます。ところがある日、はなこの体が大変なことに!?

ほのぼのとした絵でのどかな牧場を感じられます。結末を想像しながら、親子で楽しく読める絵本です。



どんな絵本をえらんだらいいですか？

絵本を読んでもらう時、子どもたちは絵本の中のできごとを、自分がそこにいるように感じ、喜んだり、悲しんだり、冒険したりします。子どもたちが心から楽しみ、何度でも味わいたいと思う絵本、子どもたちが成長していく上で、心のよりどころとなるような絵本を選ぶとよいでしょう。

ロングセラーの絵本は、世代を超えて読み継がれ、子どもたちに喜ばれている本です。出版から20年以上を目安に選ぶとよいでしょう。



くまのコールテンくん

ドン=フリーマン/作 まつおかきょうこ/訳 偕成社

くまのコールテンくんはデパートのおもちゃ売り場で、自分を買ってくれる人を待っています。ある日女の子がデパートに来て、コールテンくんを一目で好きになります。ぬいぐるみのコールテンくんと女の子の心温まる絵本です。

ぐりとぐら

なかがわりえこ/作 おおむらゆりこ/絵 福音館書店

野ねずみの兄弟、ぐりとぐら。ある日、木の実を拾いに森へ出かけて行くと、とても大きなまごか落ちていました。2匹はそのまごでカステラを作ります。それを森の動物たちと食べる場面は、本当にあまい香りがしそうなくらい魅力的です。

くれよんのくろくん

なかやみわ/作・絵 童心社

くれよんたちが、きれいな色でお絵かきを始めます。でも、みんな張り切りすぎて、絵がぐちゃぐちゃに！そこでくろくんの出番です。

どんな絵が描かれるか、親子で楽しみながら読み進められる一冊です。

くんちゃんの だいいりょう

ドロシー・マリノ/文・絵 石井桃子/訳 岩波書店

寒くなり南の国に鳥たちが飛び立ちます。それを見かけた子ぐまのくんちゃんは、自分も南の国に行こうとしますが、忘れ物をしては何度も家に戻ってききます。そんなくんちゃんの様子をお父さんとお母さんは温かく見守ります。

ごきげんならいおん

ルイーズ・ファティオ/文 ロジャー・デュボアザン/絵
むらおかはなこ/訳 福音館書店

フランスの動物園に住んでいるらいおんは、いつもごきげん。町の人たちとも仲良しです。ある日、檻の鍵が開いていたので、らいおんは町に出てみました。すると町は大騒ぎに！驚く町の人たちと、いつも通りのらいおんの対比が楽しく、結末にほっとするお話です。

こねこのぴっち

ハンス・フィッシャー/文・絵 石井桃子/訳 岩波書店

りげっとおばあさんの家には、動物がたくさんいて、こねこたちも毎日とてもぎやかです。けれどぴっちは、他のこねこと同じように遊ぶのはいやでした。

違う動物の真似をしては失敗を繰り返すぴっちを、おばあさんや動物たちは優しく見守ります。

サリーのこけもつみ

ロバート・マックロスキー/文・絵 石井桃子/訳 岩波書店

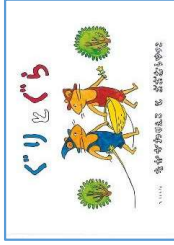
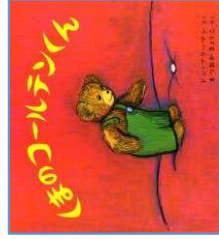
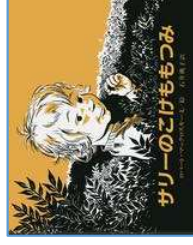
お母さんとこけもつみにきたサリーは、食べることに夢中になっていました。同じく山の反対側からくまの親子もこけもつみを食べに来てきました。ところが、いつの間にか入れ替わってしまったサリーと子ぐま。無事に本当のお母さんと会えるのでしょうか？

すてきな三にんぐみ

トミー・アングラー/作 いまえよしと/訳 偕成社

夜になると現れる3人組のどろぼう。誰もが怖がる3人組でしたが、みなしごのティファニーちゃんをさらった時から、だんだん様子が変わっていきます。

暗い色と明るい色をうまく使い分けた絵は、お話と合わせて、最後まで子どもたちを飽きさせません。



せんたくかあちゃん

さとうわかこ／作・絵 福音館書店

犬でも猫でも、家にあるものをなんでも洗濯してしまいませんかあちゃん。しまいには、おへそを取りに来た雷さまも洗濯してまいります！

洗濯が大好きな元気いっぱいのかあちゃんを描いた、楽しいお話です。

だるまちゃん と てんぐちゃん

加古里子／作・絵 福音館書店

てんぐちゃんが持っているようなわがわがほしいだるまちゃん。そこでだるまどんが、色々なうちわを出してくれました。

くり返しが楽しく、ずらっと並んだ物を見ながらだるまちゃんが何を選ぶのか、一緒に考えてみるのもいいですね。

ちいさな ヒツポ

マーシャブラウン／作 うちだりさこ／訳 偕成社

お母さんが小さいヒツポにかばの言葉を教えます。「グアオ あぶない！」「グアオ たすけて！」ヒツポは何度も練習しました。ある日、お母さんから離れたヒツポに大きなワニが……。

力強い版画によって動物たちが表情豊かに表現され、自然界の厳しさともにお母さんの愛情が伝わってきます。

ちよろりんと とっけー

降矢なな／作 福音館書店

夏休み。トカゲのちよろりんは、おじさんの家に初めて一人で出かけます。ところが、こっそりついてきた弟のとっけーにちよろりんは振り回されてばかり。そして、さらに恐ろしいことが起こってしまいます。

ティッチ

パット・ハッチンス／作・絵 いしいもこ／訳 福音館書店

ティッチは3人兄弟の末っ子です。兄さんや姉さんが持っているのは、大きい自転車に大きい兜、でも、ティッチが持っているのは、小さな三輪車やかざぐるままでした。

末っ子の心をわかりやすく描いた絵本です。ラストのティッチの誇らしげな姿に、共感する子どもも多いことでしょう。

どうぶつ しんちようそくてい

間かせ屋。けいたろう／文 高島純／絵 アリス館

今日は動物園の身長測定。でもウサギは耳をのぼして高くみせようとすし、カンガルーはジャンプして測れないのでゴリラ先生は悪戦苦闘。

なかなかスムーズにいかない身長測定をユーモアいっぱいに描いています。

字が読めるようになったら、 一人で読ませた方がいいですか？

字を覚えたての子どもは、文字を追うことに精一杯で内容まで十分に理解することができません。読んであげること、子どもはゆったりとお話の世界に入り込むことができます。

また、子どもは大好きな人が自分のために読んでくれることがとても嬉しいのです。ぜひ、大きくなってからも読んであげて、子どもと楽しい時間を過ごしてください。

小さい時にたっぷり読み聞かせをしてももらった子どもは、本を身近に感じ、自分で手に取る機会が少しずつ増えてくることでしよう。



どろんこハリー



ジーン・ジオン／文 マーガレット・プロイ・グレアム／絵
わたなべしげお／訳 福音館書店

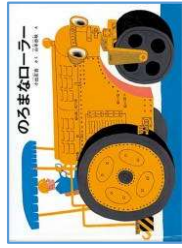
ハリーはお風呂が大嫌いな黒いがちのある白い犬です。お風呂のブラシを隠して外へ抜け出し、汚れて白いがちのある黒い犬になってしまう！
汚れたことで家の人に気づいてもらえず、必死に芸をするハリ－のかわいらしい姿も見どころです。



のろまな ローラー

小出正吾／作 山本忠敬／絵 福音館書店

道路を押し固めていくローラー。ある日、道をなおすためにでこぼこの坂をゆつくりのぼっている、他の車たちにはかにされてしまします。けれども、ローラーを抜かして行った車たちが、次々にパンクしてしまい……。



は 齒いしやのチュ－先生

せんせい

ウィリアム・スタイク／文・絵 うつみまお／訳 評論社

ある日、ネズミのチュ－先生はキツネに歯の治療を頼まれます。危険な動物はお断りなのですが、あまりに痛そうなので治療することになりました。ところが危うく食べられそうになります。でも先生は知恵を働かせて危険を乗り切ります。



はたらきもの じょせつしゃ けいていー

バージニア・リー・バートン／文・絵 いしいもこ／訳 福音館書店

けいていーは強くて大きな赤いトラクターです。大雪の日、除雪機を付けたけいていーの出番です。雪で動けず困っている人がいれば、東から北、西、南へと雪をかき分け大活躍！
ページの隅々までじっくり読みたくなる絵本です。



ハンダの びっくりプレゼント



アイリーン・ブラウン／作 福本友美子／訳
光村教育図書

ハンダは、果物をかごに入れ、友だちにあげるために歩き出しました。しかし、その道々で動物たちが現れ、果物を取られてしまいます！

ケニアのルオ族をモデルにしているお話で、その文化にも触れることができます。



ピーターのいす



エズラニジャックニキーツ／作 きじまはじめ／訳 偕成社

ピーターに妹が生まれました。ピーターのものだったゆりかごやベッドが、次々と妹用に塗りかえられます。まだ塗られていない青いいすを持って、ピーターは……。

兄弟が生まれた子どもが体験する切ない感情と、ピーターの成長が描かれています。



ピーターラビットの おはなし



ビアトリクス・ポター／作・絵 いしいもこ／訳 福音館書店

いたずらこうさぎのピーターは、お母さんの言いつけを破り、畑にしのびこみます。怒ったマグルガーさんに追いかけられますが、靴や上着を失くしながらもなんとか逃げ帰ります。

ピーターの冒険にハラハラし、無事帰れたことにほっとすることでしょう。

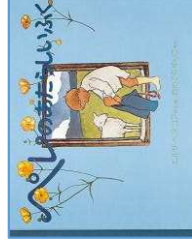


ペシのあたらしいふく

エルサ・バスコフ／作・絵 おのでらゆりこ／訳 福音館書店

ペシは、自分が育てたひつつじの毛を刈り取り、新しい服を作ろうとしました。毛をすいて、糸を紡いで、青く染めます。それから、服を作ってもらおうかわりにお手伝いをします。

洋服が丁寧に作られていく過程を美しい絵で描いたスウェーデンの絵本です。



ぼとんとんは なんのおと

神沢利子／作 平山英三／絵 福音館書店



冬ごもりをしているくまの親子。穴の中まで色々な音が聞こえてきます。ある日「ぼとんとん」という音が聞こえてきました。さあ、何の音でしょう？
春を待つくまの親子が、温かみのある絵で描かれています。

まあちゃんのがいかみ

たかどのほうこ／作 福音館書店

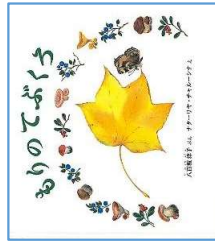


まあちゃんのかみは、短いおっぱいです。でも、これから友だちのかみに負けないくらい、ずっと長く伸ばすんです。どのくらい伸ばすかと言うと、橋の上から魚がつかれたり、くるまれば布団になったりするくらい。まあちゃん想像力の豊かさに、子どもたちも大喜びするお話です。



もりのてびくろ

八百板洋子／文 ナターリヤ・チャルーシナ／絵 福音館書店



森にきれいな葉っぱが一枚落ちていました。動物たちが順番にやってくる、葉っぱに自分の手を合わせてみますが、大きかったり小さかったり。最後には男の子がやってきて手を合わせてみます。静かな森の情景が美しい絵で描かれています。

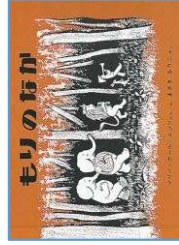
もりのなか

マリ－・ホール・エッツ／文・絵 まさきりこ／訳 福音館書店



ほくが、らっぱを持って森へ散歩に出かけると、動物たちが次々とぼくの散歩についてきました。いっしょに行進をしたり、かくれんぼをしたり……。

モノトーンで描かれた絵本の中で、子どもたちは主人公の男の子と一緒に森での体験を楽しむことができます。



ラチとらいおん

マレーク・ペロニカ／文・絵 とくながやすもと／訳 福音館書店



ラチは、世界中で一番弱虫な男の子です。そんなラチの前に現れたのは、小さな赤いらいおんでした。らいおんに励まされ、ラチは弱い心を克服していきます。

強くなったラチを見て、子どもたちも勇気をもらえませんかもしれません。

わゴムは どのくらい のびるかしら？

マイク・サーラー／文 ジェリー・ジョイナー／絵 きしだえりこ／訳 ほるぷ出版

ぼうやは、わゴムがどのくらい伸びるか気になって、ためしてみることになりました。部屋から外へ、自転車に乗って、バスに乗って……。どんどん伸びていくわゴムとぼうやがたどりのつくりはどのくらい？
想像力をふくらませて、お子さんと楽しんでください。



何度も同じ本を読んでもらいたがります

大人にとっては、何度も同じ本を読むのはつまらない、いろいろな本を読んでほしいと思いかもしれません。でも、子どもは読むたびに新しい発見をし、絵本がどんどん自分のものになっていきます。

子どもが気に入った本に出会えたことはとても素敵なことです。大人になっても忘れない心に残る一冊になるでしょう。どうぞ、気がすむまで何度も読んであげてください。



ほかにもあるよ

こんな本



アイラのおとまり

バーナード・ウェバー／作・絵
まえざわあきえ／訳
ひさかたチャイルド・徳間書店



いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう

バージニア・リー・バートン／文・絵
むらおかはなこ／訳 福音館書店



いぬ おこわり!

H.A.レイ／絵
マーガレット・ワイズ・ブラウン／作
ふくもとゆみこ／訳 偕成社



うんがにおちたうし

フィリス・クラシロフスキー／作
ピーター・スパイアー／絵
みなみもとちか／訳 ポプラ社



かもさんおとわり

ロバート・マックロスキー／文・絵
わたなべしげお／訳 福音館書店



きみなんか だいきらいさ

ジャニス・メイ・ユードリー／文
こだまともこ／訳
モーリス・センダック／絵 富士房



ぐるんぱのようちえん

西内みなみ／作
堀内誠一／絵 福音館書店



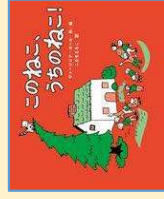
げんきなマドレーヌ

ルドウィヒ・バームルマンス／作・画
瀬田貞二／訳 福音館書店



こすずめのぼうけん

ルース・エインスワース／作
いしいもこ／訳
ほりうちせいいち／絵 福音館書店



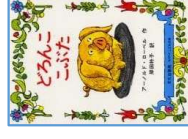
このねこ、うちのねこ!

ヴァージニア・カール／作・絵
こだまともこ／訳 徳間書店



ターちゃん と ペリカン

ドン・フリーマン／作
さいおんじさちこ／訳 ほるぷ出版



どろんこ こぶた

アーノルド・ローベル／作
岸田衿子／訳 文化出版局



ピッツアぼうや

ウィリアム・スタイグ／作 木城涼／訳
らんか社 (旧セーラー出版)



よかつたね ネットくん

シミー・シャリープ／作
やぎたよしこ／訳 偕成社

にほんの むかしばなし



かさじそう

瀬田貞二／再話 赤羽末吉／画 福音館書店

ある年の大晦日、じいさんはかさを5つ作り、まちに売りに行きましたが全く売れません。帰る途中じぞうさまが6体、雪をかぶってしまいました。気の毒に思ったじいさんは……。

筆で描かれた絵と語りとの文体で、物語の世界を楽しんで下さい。

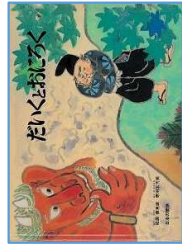


かにむかし

木下順二／文 清水崑／絵 岩波書店

お母さんがには、さるに青くて固い柿の皮を投げられて死んでしまいました。そのかたきをとろうと、子かにと仲間たちが奮闘するおなじみの昔話です。

墨絵のような素朴な絵と、方言を使ったリズムミカルな言い回しが心地いい絵本です。



だいくとおろく

松居直／再話 赤羽末吉／画 福音館書店

大工が流れの速い川に橋をかけることになりました。すると鬼が現れ、目玉をくれたら代わりに橋をかけてやると言いました。

昔話の語り口と迫力のある絵で描かれた、大工と鬼のやりとりが楽しい一冊です。



ふしぎなたいこ

石井桃子／文 清水崑／絵 岩波書店

げんごろうさんが持っているたいこは、だたくと鼻が高くなったり、低くなったりします。そこで自分の鼻が一体どのくらい伸びるのか試してみたくまりました。

愉快なお話に、味わいのある絵がびったりです。他に2つのお話が入っています。



ももたろう

まついただし／文 あかばすえさち／絵 福音館書店

ももたろうは、とても賢く、力持ち。鬼の悪事を聞き、犬、猿、キジをお供に鬼退治に向かいます。

誰もが知っているお話を、ダイナミックな描写と昔話特有の語り口で、より魅力的に描いています。

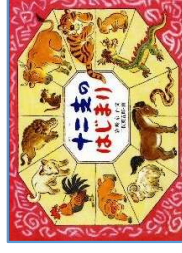


ほかにもあるよ こんな本



こぶじさま

松居直／再話 赤羽末吉／画 福音館書店



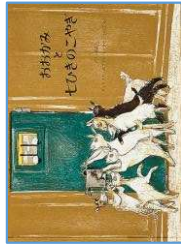
十二支のはじまり

岩崎京子／文 二俣英五郎／画 教育画劇

せかいの むかしばなし

おおかみ と 七ひきのこやき

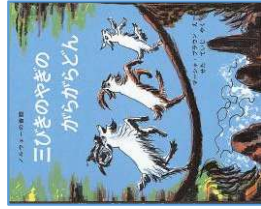
フェリクス・ホフマン／画 せたていじ／訳 福音館書店



お母さんやぎが留守の間に、子やぎがオオカミにおそわれ食べられてしまうグリム童話です。
躍動感のある絵で、子やぎたちのかわいらしさ、お母さんの悲しみや怒りが表現され、読みごたえのある一冊です。

三ひきの やぎの がらがらどん

マーシャ・ブラウン／絵 せたていじ／訳 福音館書店



3匹のやぎのがらがらがらどんが山へ草を食べに行きました。最初に一番小さいがらがらどんが橋を渡ると、その下には恐ろしいトロールがいました。
機転のきいたがらがらどんとトロールのやりとりが、迫力ある絵とともに描かれているノルウェーの昔話です。

パンはころころ

マーシャ・ブラウン／作 やぎたよし／訳 富山房



窓辺からパンがころころと外に転がっていきました。野うさぎやおおかみに出会うと食べられそうになりながらも、知恵を使って逃げていきます。でも、きつねは一枚上手でした！
調子よく逃げていくパンの様子や、得意になったばかりに起こる結末が楽しいロシアのお話です。

ブレーメンのおんがくたい

ポール・ガルドン／絵 晴海耕平／訳 童話館出版



年若い4匹の動物たちが、音楽隊に入るためにブレーメンの町をめざします。4匹は、森で一軒の家を見つけ夜を明かそうとしましたが、そこはどろぼうの家だったのです！
道中の動物たちの愉快なやりとりと、思いがけない策が痛快なグリムのお話です。

ほかにもあるよ こんな本



3ひきのくま

レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ／著
バスネツォフ／画 福音館書店
おがさわらとよき／訳



三ひきのこぶた

瀬田貞二／訳 山田三郎／絵
福音館書店

むかしばなしの良さはなんですか？

昔話は、世界各地で何世紀にもわたって、人から人へと語り伝えられてきました。だからこそ、文字で読むよりも、耳で聞く方が昔話本来の楽しさを感じることができず。
子どもたちが喜ぶくり返しの文章や音の楽しさ、また、暮らしの知恵や生きる希望など、いろいろな魅力が詰まっている昔話。
ぜひたくさん読んであげてください。

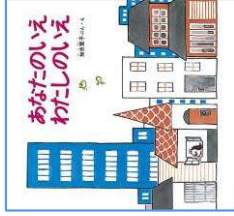


ふしぎいっぱい かがくえほん

あなたのいえ わたしのいえ

加古里子／文・絵 福音館書店

家は私たちの暮らしに欠かせない、大切なものです。なぜ屋根が必要なのか、壁や窓はどんな役目をしているのかなど、家かどうしてこのような形になったのかがよくわかります。作者の素朴な絵に親しみができます。



うちゅうひこうしに なりたいな

バイロン・バートン／作 ふじたちえ／訳 ポプラ社

宇宙飛行士は、子どもにとって憧れの職業のひとつです。どんな仕事をするのか、宇宙ではどのように生活するのかなど、宇宙飛行士的一天が、シンプルで明るい色の絵で描かれています。宇宙への想像を膨らませながら楽しんでください。



おかしなゆき ふしぎなおこり

片平孝／写真・文 ポプラ社

自然によってできた雪や氷のおどろくような世界が、次々と現れます。雪国を知らない人は、見たこともない珍しい風景や自然の美しさに感動することでしょう。冬に読みたい迫力ある写真絵本です。



かぶとむしは どこ?

松岡達英／作 福音館書店

子どもたちに人気のかぶとむし。昆虫の王様とも言われます。かぶとむしが土の中でどのように成長し地上に出てくるのか、その一生が描かれています。夏の夜空を飛びかぶとむしの絵は圧巻です。



こいぬが うまれるよ

ジョアンナ・コール／文 シェローム・ウエクスラー／写真
つばいいくみ／訳 福音館書店

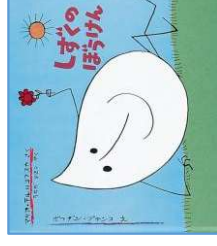
隣の家で産まれた子犬を、1匹もろうことになっている女の子。お母さん犬の出産と、産まれてから2か月までの子犬の成長の様子が、女の子の目を通して語られています。生命の誕生の素晴らしさを描いたアメリカの写真絵本です。



しずくの ぼうけん

マリア・テルリコフスカ／作 うちだりさこ／訳
ポフダン・ブテンコ／絵 福音館書店

ある日、おばさんのバケツから一滴の水が飛び出しました。しずくの冒険の始まりです。水が太陽に照らされ水蒸気になったり、寒さで氷になったり、気温によって変化する性質が学べます。お話を楽しみながら水に関する知識が身につく一冊です。



しっぼのはたらき

川田健／文 藪内正幸／絵 今泉古典／監修 福音館書店

動物のしっぼは手のような役目をしたり、気持ちを表したり、暮らし方によってはたらきに違いがあるようです。前のページのしっぼの絵をヒントに、次になんの動物が出てくるかを考えながら読むとおもしろいですよ。



たんぼぼ

平山和子／文・絵 北村四郎／監修 福音館書店



わたしたちの身の回りでよく見かけるたんぼぼ。この本を読むとたんぼぼの秘密がわかります。たんぼぼの根はどうなっているのでしょうか？ 一本の花をよく見てみると……？
春、たんぼぼが咲いたら、ぜひ読んでみてください。

てのひら かいじゅう

松橋利光／写真・文 そうえん社



庭で見つけた小さなカナヘビやトカゲ、ヤモリ。間近で見るとまるで怪獣のようです。著者は相模原市在住の生き物カメラマン。たくさんさんの写真で、身近な生き物の特徴や飼い方が説明されています。

とけいのほん 1

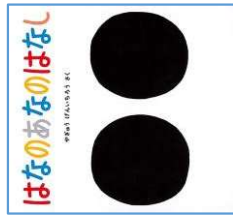
まついのりこ／作・絵 福音館書店



時計の短針を“ちび”、長針を“のっぽ”と見立て、ちびとのっぽが時計のよみ方をわかりやすく、楽しく教えてくれます。
お子さんが生活の中で時間や時計に興味を持ったら、ぜひ読んであげてください。

はなのあなのはなし

やぎゆうげんいちろう／作 福音館書店



顔の真ん中にある鼻のあな。一番大切な役目は空気を吸ったり吐いたりして、息をすることです。
鼻水、鼻くそ、鼻血、鼻の中の構造やしくみなど、子どもたちが興味のある体の秘密を知ることができる科学絵本です。

ふゆめ がっしよしうだん

富成忠夫、茂木透／写真 長新太／文 福音館書店



冬、葉の落ちた木の枝には小さな冬芽が出ています。よく見ると、そこにはウサギやコアラ、子どもに見える愉快な顔が！ 冬芽をアップでとらえ、詩のようなリズムミカルな言葉を添えた写真絵本です。

どんな顔に見えるか、お子さんと楽しんでください。

ぼく、だんごむし

得田之久／文 たかはしきよし／絵 福音館書店

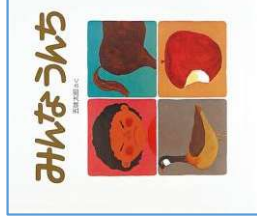


指でさわるとくると丸くなるだんごむし。どんな所にすんでいいのか、何を食べて大きくなるのかなど、だんごむしの生態について描かれています。

身近にいる生き物に、興味をもつきっかけになることでしょうか。

みんな うんち

五味太郎／作 福音館書店



ぞうは大きいうんち、ねずみは小さいうんち。大きさも形も生き物によって、色々なうんちがあります。うんちをする場所や、片付け方も様々です。人間もうんちをします。

物を食べる生き物にとって、うんちをするのは大切なことだと教えてくれます。

ゆかいな かえる

ジュリエット・ケベシュ／文・絵 いいももこ／訳 福音館書店



魚に食べられそうになったところを危うく逃れた4つの卵。卵がかえり、かえるになりました。水の中を泳いだり潜ったり、葉っぱのかけに隠れたり、夏中楽しく過ごします。

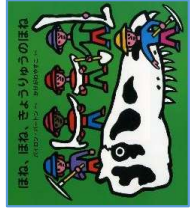
リズムミカルな文章と、元気いっぱいユーモラスなかえりるの表情を楽しんでください。

ほかにもあるよ

こんな本



かまきりのちよん
得田之久／作・絵 福音館書店



ほね、ほね、きょうりゆうのほね
バイロン・バートン／作
かががわやすこ／訳 ポプラ社



じゃぐちをあけると
しんぐらすすむ／作 福音館書店



しろいかみのサーカス
たにうちつねお／作
いちかわかつひろ／写真 福音館書店



うた ことばあそび



あぶくたった わらべうたえほん
さいとうしのぶ／構成・絵 ひさかたチャイルド

「あぶくたったにええった」と歌いながら、ねずみの家族が小豆を煮ています。時々食べてみて、煮えたらあまーいおしるこにするのです。

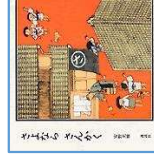
うたのイメージがわかりやすく伝わる絵本です。一人でも親子でも、歌いながら楽しめます。



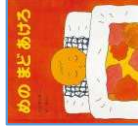
なぜぞえほん 1のまき
中川季枝子／作 山脇百合子／絵 福音館書店

「ぐりとぐら」をはじめ、長年親しまれているお話の登場人物たちが出てくるなぜぞえほんの絵本です。思わず声に出したくなるリズムミカルな文章で、絵の中にはなぜぞえほんのヒントが隠れています。子どもの手にぴったりの小さいサイズの絵本です。

ほかにもあるよ こんな本



さよならさんかく
安野光雅／著 講談社



めのまどあけろ
谷川俊太郎／文 長新太／絵
福音館書店

えほんから ものがたりへ



あおい目のこねこ

エゴン・マチャーセン／作・絵 せたていじ／訳 福音館書店

あおい目のこねこは、ねずみの国を見つげに出かけました。大きな魚に聞いてみたり、真っ暗な洞穴に入ってみたりしましたが、なかなか見つけれません。

魚に笑われても、ハリネズミに相手にされなくても、へこたれな
いこねこを応援したくなります。

おおきな おおきな おいも

赤羽末吉／作・絵 福音館書店

いもほり遠足が雨で延期になってしまったあおぞら幼稚園の子
どもたち。紙に絵の具でおいもを描き始めました。おいもはど
ん大きくなって、大きな大きなおいもになりました。

一つのおいもから子どもたちの豊かな想像力で展開していくス
トーリーに夢がふくらみます。



けんた・うさぎ

中川季枝子／作 山脇百合子／絵 のら書店

小さなけんた・うさぎの日常が、たくさんの挿絵とともに生き生
きと描かれています。

子どもたちは、けんた・うさぎのしぐさや行動を、自分と重ねて
楽しむことでしょう。



こぐまの くまくん

E・H・ミナリック／文 モーリス・センダック／絵
まつおおきよこ／訳 福音館書店



寒い冬、何か着るものが欲しいと言うくまくんに、お母さんが上
着やズボンを作ってあげました。それでもまだ、毛皮のマントが欲
しいと言うくまくんにお母さんは!?
くまくんとお母さんの楽しい毎日が描かれたお話が4話入って
います。

ばん 番ねずみのヤカちゃん

リチャード・ウィルバー／作 松岡享子／訳 大社玲子／絵
福音館書店



ドドさんの家に住むねずみの一家は、ドドさんや奥さんに見つか
らないように用心して暮らしています。でも困ったことが一つ。子
ねずみのヤカちゃんの声がとても大きいのです!

純粋でまっすぐなヤカちゃんに、ハラハラしながらも楽しめる
ユーモアあふれる一冊です。

ほかにもあるよ こんな本



いやいやえん

中川季枝子／作 大村百合子／絵
福音館書店



チム・ラビットのぼうけん

アリン・アトリー／作 石井桃子／訳
中川宗弥／画 童心社

おはなし会のご案内

図書館では4歳以上のお子さんに向けた「おはなし会」を開催しています。絵本や紙芝居の他、語りのおはなしも取り入れています。一緒に楽しいひとときを過ごしてみませんか？詳しくは各図書館にお問い合わせください。

市立図書館

こぐまちゃんのおはなし会

毎月第2・4土曜日 午後3時～

おはなしのたからばこ

毎月第3日曜日 午後3時～ 会場：1階 じゅうたんコーナー

市立図書館相武台分館

水よう日のおはなし会

毎月第1・3水曜日（祝日と8月を除く） 午後3時30分～

土よう日のおはなし会

毎月第2・4土曜日 午前10時30分～ 会場：集会室

相模大野図書館

このゆびとまれのおはなし会

毎月第2・4水曜日（祝日と8月を除く） 午後3時30分～

※6・9・12・3月は第2日曜日と第4水曜日

サタデーおはなし会

毎月第2・3・4土曜日（祝日と8月を除く） 午後3時～

会場：4階 こどもの本のフロア おはなしの部屋

橋本図書館

すみれおはなし会

毎月第4日曜日（8月を除く） 午前11時～

会場：こどものほんのコーナー おはなしのへや

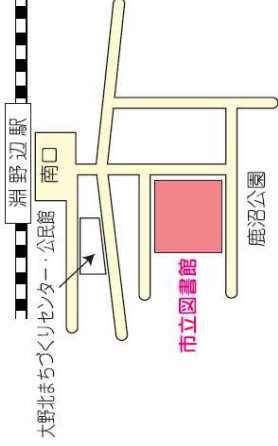
時間等が変わる場合があります。

図書館案内

市立図書館

中央区鹿沼台 2-13-1

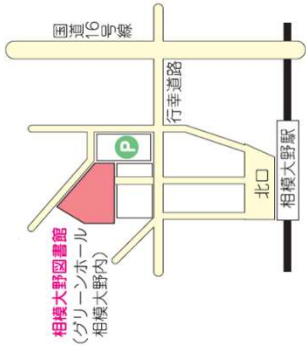
042-754-3604



相模大野図書館

南区相模大野 4-4-1

042-749-2244



市立図書館相武台分館

南区新磯野 4-8-7

046-255-3315



橋本図書館

緑区橋本 3-28-1

042-770-6600



閉館時間

火～金 午前9時30分～午後8時

土・日・休日 午前9時30分～午後6時

※相模大野図書館4階こどもの本のフロアは

火～日・休日 午前9時30分～午後6時

※市立図書館相武台分館は

火～日・休日 午前9時～午後5時

休館日

月曜日（その日が休日の場合は翌日）

図書整理日・蔵書点検期間・年末年始

詳細については各図書館にお問い合わせください。

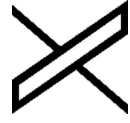
図書館のHP、フェイスブック、Xは
こちらのQRコードからアクセスできます



相模原市の図書館
ホームページ



相模原市の図書館
Facebook



相模原市の図書館
X



図書館のHPはこちらからもご覧いただけます

<https://www.lib.sagamihara.kanagawa.jp>

発行 令和8年2月

発行者 相模原市の図書館